

2020年12月24日

各位

片倉コープアグリ株式会社

新しい時代にマッチした水稲栽培技術  
～「深肥」技術の実証と普及展開について～

近年、農業を取り巻く気象環境の変化は大きく、安定した水稲栽培を行うことが難しくなりつつあります。弊社は、このたび、株式会社ぶった農産（代表取締役社長 佛田利弘）と2019年より取り組んで来ましたペースト肥料二段施肥機付き田植機を用いた深層施肥技術を「深肥」技術として位置づけ、気象変動の大きい昨今の環境下でも安定した水稲生産性を確保するための栽培技術として有用であることを見出しました（「深肥 /SHINPI」は株式会社ぶった農産商標登録）。

本技術は、株式会社ぶった農産 代表取締役社長 佛田利弘氏が考案し、自らが発案と開発に関わった「密苗（高密度播種育苗田植）」技術との相乗効果が高いことも明らかになりつつあり、新たな水稲栽培技術として農業現場での期待が高まっています。さらには、大型規格品（500 kg・1,000 kgタンク品）を用いることで、田植時に重い肥料袋を運搬する必要がなくなり、大幅な軽労化を図ることが出来るとともに、本施肥技術によってほとんど追肥が不要となること等、暑い時期の重労働を大幅に省力できる可能性があります。また、本技術では田面水中への肥料成分の流出が少ないことから、河川や湖沼の富栄養化の軽減効果が期待できます。加えて、ペースト肥料の大型規格品を用いることで、肥料袋等のプラごみ排出が削減出来るメリットがあります。

弊社では、こうした社会のニーズに応えるべく、株式会社ぶった農産と共同で、「密苗（高密度播種育苗田植）」技術と「深肥」技術を組み合わせた、新しい時代にマッチした水稲栽培技術の実証に取り組むとともに、全国へ普及展開する活動に協力して参ります。具体的には、弊社がペースト施肥機付き田植機のデモ機を導入し、「密苗」と「ペースト二段施肥」の親和性に関する実証を全国規模で行って参ります。一方、株式会社ぶった農産をはじめとする北陸農業技術経営研究会では、石川県内の8法人、計120ha規模での大規模実証研究を通じ、軽労化や安全作業性の更なる改善等や昨今の気象環境に対応した施肥の最適化に取り組んでいく予定であり、全国の農業者と連携して取組を進める予定です。

◇ペースト施肥技術の利点 ～減肥・収量安定・省力～

- ・液状のため肥料の効き始めが早く、初期生育の確保に有利（特に冷涼な地域）
- ・有機入り肥料による一発施肥栽培が可能
- ・最近では、密苗（高密度播種育苗田植）の初期成育促進等、親和性に期待する声の大きい
- ・側条施肥により減肥が可能（全層施肥に比べ、1～3割減肥可能）で、水田排水の富栄養化を軽減する効果の可能性

## プレスリリース

- ・側条一発型ペースト「てまいらずペースト 488」の上市により製品ラインナップが充実
- ・二段施肥技術で深層に施肥することで、温暖化の影響を受けにくい
  - 下段（地表から 9 ～15cm）の地温は、気温の影響を受けにくく肥効が安定
  - また、上段：下段の割合を変えることにより、生産者自身で施肥チューニングが可能
- ・降雨も田植同時施肥作業が出来ることから、計画的な田植えが可能
- ・液状ならではの取り回しの良さ、特に大型規格タンク品での供給（タンクから田植機へ、ポンプによる肥料補給）
  - 田植時に重量物を一切もたなくてよい軽労性
  - 不安定な足場でも重量物を持たなくてよい安全作業性
  - 包材のプラゴミが出ないため、環境にやさしく、プラゴミ処分費用も掛からない
- ・農薬との混用により、更なる省力が可能（農薬登録で使用が認められているものに限る）

### 【お問い合わせ先】

片倉コープアグリ株式会社 肥料本部技術普及部

TEL：03-5216-6613、FAX：03-5216-6621

<https://www.katakuraco-op.com/contact/index.html>